ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

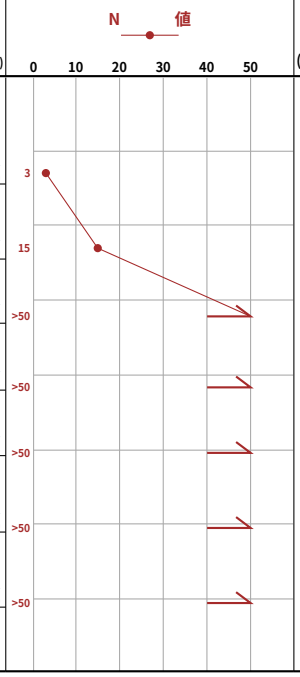
シートNO.

ボーリング名	B-2	調査位置				北　緯	36 ° 40 ’ 02.0000 ”
発注機関	栃木県烏山土木事務所		調査期間	2010-01-29 ～ 2010-02-02		東　経	140 ° 07 ’ 50.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	101.26 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 45.00 °
総掘進長	7.10 m	使用機種		試錐機		ハンマー落下用具	
				エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	100.91	0.35	0.35		コンクリート	暗灰			玉石練積み護岸。φ20cm玉石，以下CN。		
1					シルト混り砂礫 (GS-M)	暗茶灰～暗灰			コンクート直下はφ100mm内外の玉石混在。 堤体盛土材と思われる。礫はφ5～50mm主体。 礫間はシルト分と砂で充填される。 -1.2～-1.6m間、礫分少なくシルト主体の部位を挟む。 上部-1.0m付近までシルト多く混る。 全体に緩い締まり具合である。		
2	98.66	2.25	2.60		軟岩 (WR)	暗緑灰			新第三紀中新世の凝灰質砂岩で、概ね新鮮である。 -2.8m付近までは風化が進み灰茶色を呈す。 下部に従い徐々に堅硬度を増す。 岩質は概ね堅硬緻密で、5～40cmの柱状コアを主体とする。 コアの表面は粗・滑らかの級化層理が不等間隔でみられる。 無層理塊状を呈すが、密着した亀裂が疎らにみられる。		01/30 3.00 01/29 3.30
3											
4											
5											
6											
7	94.16	4.50	7.10								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	1	3／30	3
1.45					
2.15	4	5	6	15／30	15
2.45					
3.15	25	25／5		50／15	>50
3.30					
4.15	50／5			50／5	>50
4.20					
5.00	50／8			50／8	>50
5.08					
6.00	50			50／10	>50
6.10					
7.00	50			50／10	>50
7.10					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						01/29
						01/30